

第2分科会「学校配置の方向性」に関する 各地区部会の意見

【本資料について】

第2分科会で取りまとめた「学校配置の方向性（整理案）【たたき台】」について、6月に開催した各地区部会において、各地区の産業構造や今後育成すべき人財像を考慮しながら、各地区からいただいた意見を「県全体の視点による意見」と「各地区の実情を考慮した意見」に分けた上で、「県全体の視点による意見」は資料2「学校配置の方向性」に反映し、それ以外の「各地区の実情を考慮した意見」は本資料に記載している。

令和6年9月2日

第1 魅力ある高等学校づくりに向けた学校配置の観点

<各地区の実情を考慮した意見>

【東青地区】

- 東青地区において、こどもたちが本当にやりたいことを追求できる学びの場を提供するような特色ある取組を行えば、全国から生徒を集められると考える。
- 授業を受けたくても受けられない生徒への対応として、文部科学省では遠隔教育の一層の推進を図っている。東青地区でも大規模校が多いという強みを生かし、全ての生徒に教育を提供できるような方法を考えていきたい。

【西北地区】

- 【通学環境への配慮】に挙げられている4点について、西北地区における飛び地等の地域性を考慮すると非常に大事な観点である。西北地区の中学生が進路選択をするに当たって、通学環境は非常に重要な要素であり、スクールバスでの送迎や寮の有無が判断基準の一つになることもある。なお、寮がある高校については、通学時間の短縮のためにもなくしてはならない。

【上北地区】

- 十和田市では公共交通機関がバスのみであるため、自宅近辺の高校やバスで通学できる高校が中学生の進路選択肢となっているが、三沢市など鉄道が整備されている地域では上北地区以外の高校も選択肢となっており、公共交通機関の利便性が生徒の進路選択において重要な要素となっている。

【下北地区】

- 【通学環境への配慮】について、下北地区の特に町村部においては、通学に係る財政支援が教育の機会均等の観点からも重要であるため、財政支援については配慮ではなく実施すべき。

【三八地区】

- 大学へ進学する生徒が増加傾向にある一方で、三八地区では高校卒業者に対する企業のニーズが一定数あり、専門性の習得や資格の取得が可能な職業教育を主とする専門学科は就職に対して強みがあることから、学校配置を検討する際は地区内の学科の割合という観点も大事である。

第2 魅力ある高等学校づくりに向けた学校配置

1 全日制課程

<各地区の実情を考慮した意見>

【中南地区】

- 「倍率が1倍を超えた学校の多くは、青森市・弘前市・八戸市の3市にある普通高校であり」とあるが、弘前市では普通高校以外も含めた全ての高校で入試倍率が1倍を超えているなど、青森市、八戸市とも状況が異なる。

【上北地区】

- 小・中学校では、野辺地町、横浜町、六ヶ所村で様々な連携を進めていることから、各町村の高校同士でも連携は可能である。
- バスや鉄道が整備されている地域であれば、場所を問わず通学が可能であると考えますが、横浜町や六ヶ所村のように公共交通の利便性が高くない地域においては地域校の存在が大きいため、今後も地域校は存続させてほしい。
- 1学級規模の地域校について募集人員に対する入学者数の割合が2年間継続して2分の1未満となった場合は募集停止等を協議するという基準は厳しい。生徒数は減少していくが、コミュニティの場として残してほしい。

【三八地区】

- 三八地区の中学生は、高校を選択する際、通学のしやすさを重視している。
- 八戸高校は重点校として、市内の普通科の高校と互いに学び合う取組を行っており、連携に当たっては、県教育委員会が示す方向性の下で、重点校と連携校の双方が共通理解しながら進める必要がある。

2 定時制・通信制課程

<各地区の実情を考慮した意見>

【下北地区】

- 他者との関わりが苦手な中学生の受入体制について、定時制課程だけでは対応しきれない部分もあるため、あらゆる生徒に勉強する機会を与えるという観点から、下北地区には通信制課程との併置校が必要である。
- 通信制課程について、下北地区から八戸市や青森市に週2回スクーリングのために通学することは生徒にとって大きな負担であるため、下北地区にスクーリングを行う場所を設けることで、教育の機会を確保することができる。
- フレキシブルスクールのような学校を設置し、教員がどの課程にも対応できるようにすることで、下北地区のこどもに更に行き届いた教育ができる。

第3 学校配置と合わせて検討すべき事項

1 再編の方法等

<各地区の実情を考慮した意見>

【東青地区】

- 東青地区には、他地区にはない特色が様々あることから、東青地区の良さを再認識し、アピールできる人財の育成に重点を置いた学科を設置すべき。また、青森市は陸奥湾に面していることから、水産業に関わる学科があっても良いと考える。
- 全国的に、小・中学校において単独では学校規模を維持できなくなった際の対応として、小中一貫校を設置するケースが増えている。また、都市部では私立高校が中高一貫教育で学力向上を図っている中、本県の高校の小規模化の現状や三本木高校・附属中学校での成果・課題等を踏まえ、本県の中高一貫教育の在り方について検討する必要がある。
- 学習と部活動の両面から、6年間の継続的な指導を行える中高一貫教育の効果は非常に高いと考えられるため、青森市内にも中高一貫教育校を配置してほしい。
- 東青地区においては、交通の利便性など、地区の持つ利点を生かしながら、幅広く生徒を募集することも考えられる。
- 東青地区において、小・中学校との連携が進められていることに加え、コミュニティ・スクールの制度が確立されていることから、東青地区全体で小中高の縦の連携を進めることも重要である。

【中南地区】

- 弘前市の高校では入試倍率が特に高く、生徒や保護者の心理的負担が大きいことを踏まえ、全県的な入試倍率の平準化について考慮する必要がある。
- 入試倍率の平準化のためには、高倍率となっている高校の募集人員を増やすことが考えられるが、他地区からの更なる流入を助長してしまう懸念がある。

【下北地区】

- 今後、青森県はどの地区もこどもの数が減少していくことから、特色のある学科を設置し、全国から生徒を募集することも考えられるが、下北地区は地震や津波が発生する可能性もあることなどを考慮すると、地域について学び、将来に繋げられる学科があってもよいと考える。

3 通学手段の確保・通学支援

<各地区の実情を考慮した意見>

【東青地区】

- 外ヶ浜町や今別町では電車の運行がなくなり、通学手段がバスのみとなっている。私立高校へ通学する同地域のこどもたちは私立高校が運行するスクールバスを利用しているが、公立高校へ通学する同地域のこどもたちは通学に大変な労力が必要となっているため、公立高校もスクールバスを運行してほしい。